

ふせん紙仕訳 演習用紙

仕訳の演習1(土地の購入)

(付箋書き方)

①500万円の土地を現金で購入。

⇒付箋1行目に「仕訳の定位置の分類表」における分類を書きます。
土地という資産が増えたので、「資産の増加」と書いてください。

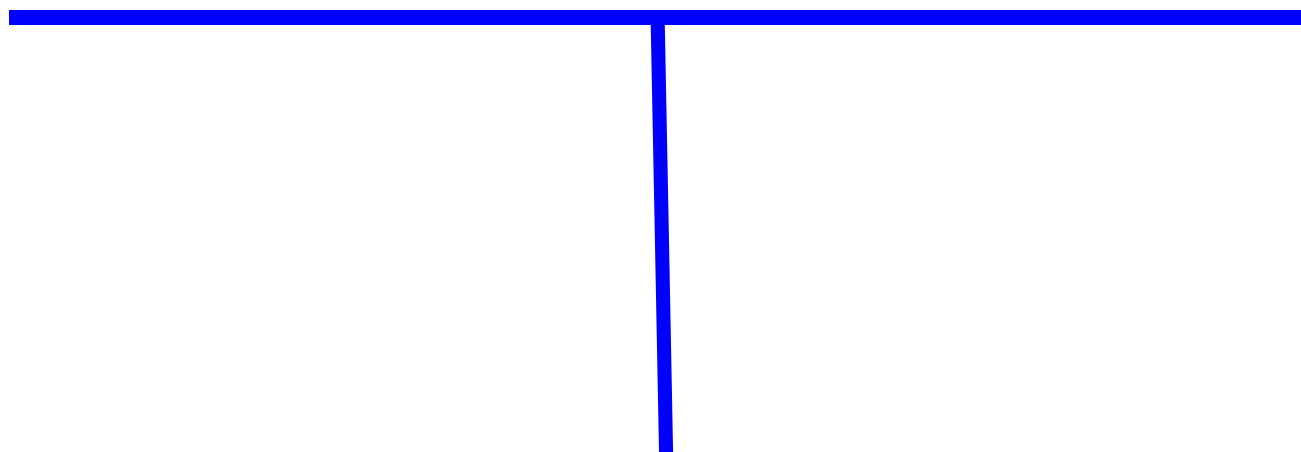
⇒次に2行目に、土地を500万円で購入したので「土地500万円」と書きましょう。

⇒その付箋を定位置に貼ってください！ 定位置はどこだったでしょうか？

⇒それと同時に500万円の現金支払(資産の減少)も付箋を書いて定位置に貼りましょう。

資産の増加

土地 500万円



仕訳の演習2(建物を建てた)

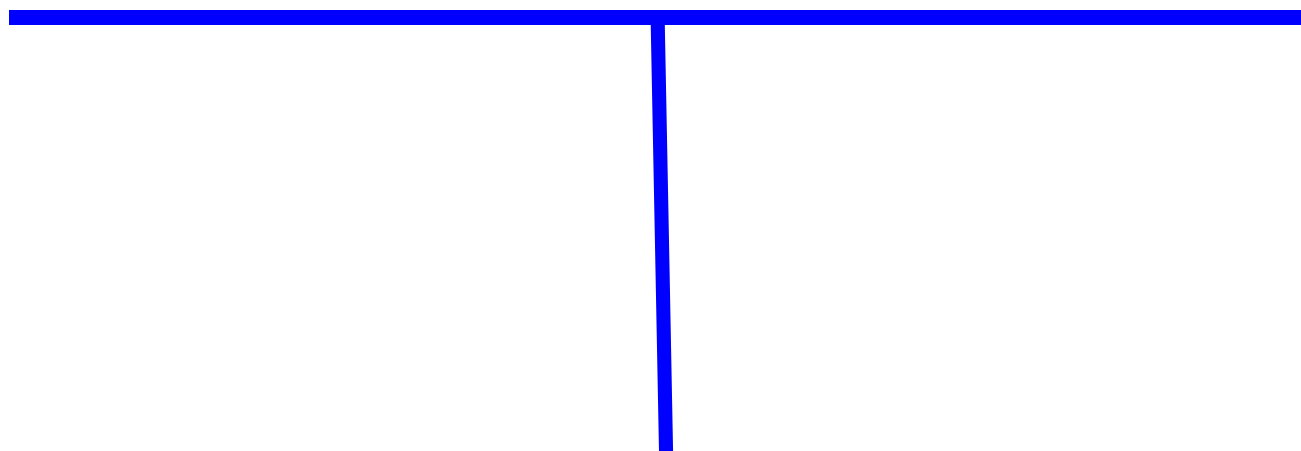
②400万円の建物を建てました。
借金200万円と現金200万円で支払いました。

- 400万円の建物を建てたので資産の増加
- 200万円の借金(借入金)をしたので負債の増加
- 200万円の現金を支出したので資産の減少

※ふせん紙は3枚使ってください。

【仕訳の定位置の分類表】

借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生



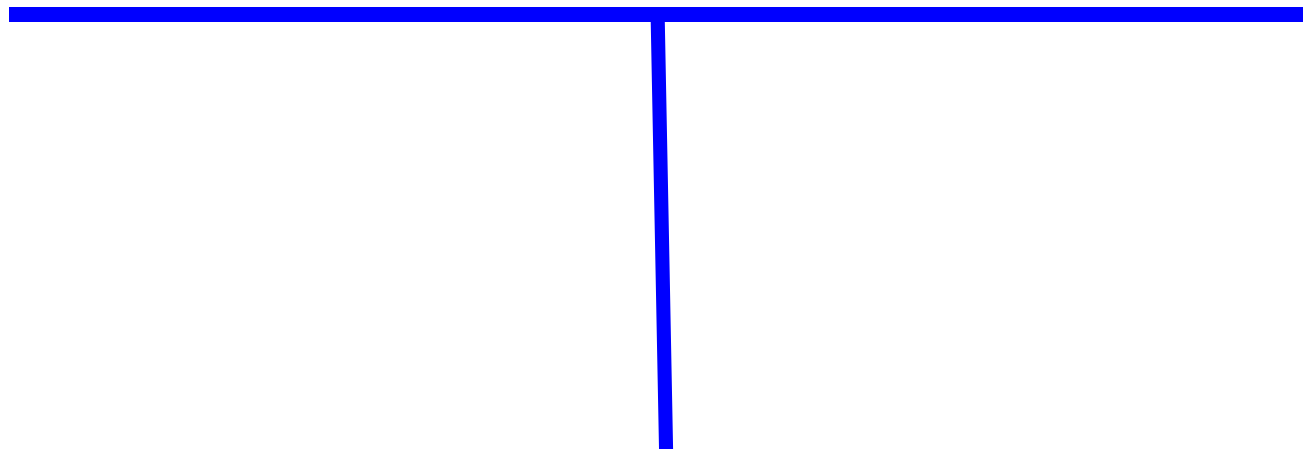
仕訳の演習3(光熱水費)

③100万円の光熱水費を現金で支払いました。

- 100万円の費用が発生
- 100万円の現金が減少

【仕訳の定位置の分類表】

借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生



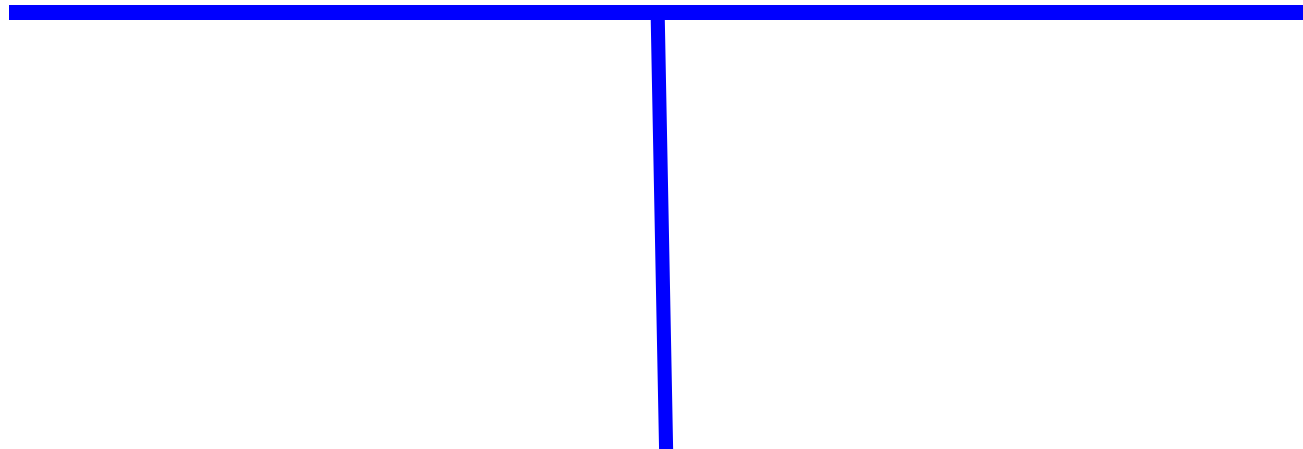
仕訳の演習4(使用料収入)

④50万円の使用料収入がありました。
現金で受け取りました。

- 50万円の収益が発生
- 50万円の現金が増加

【仕訳の定位置の分類表】

借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生



仕訳の演習5(税金の収納)

【仕訳の定位置の分類表】

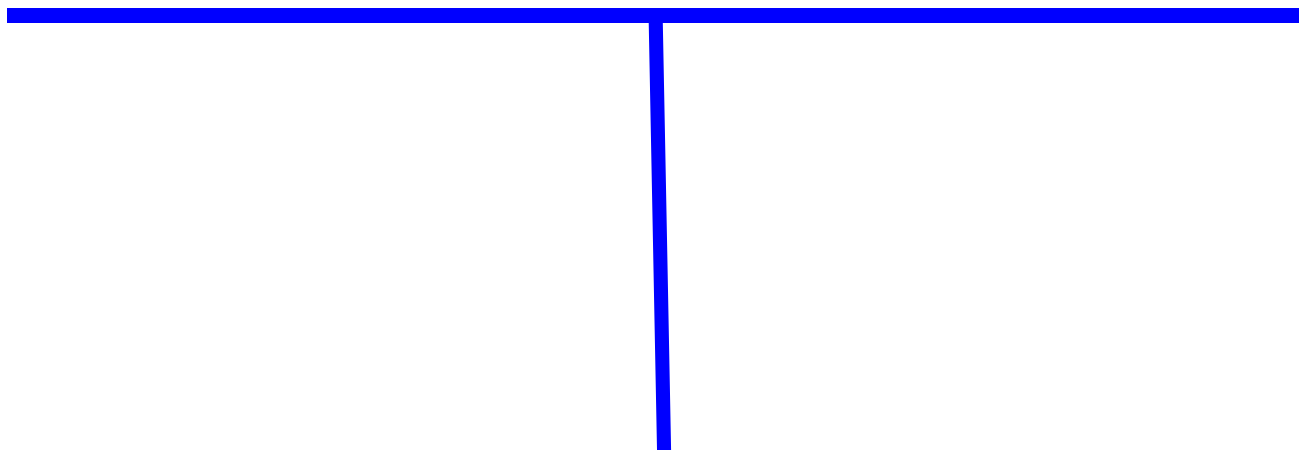
借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生

⑤800万円の税金が収納されました。

- 800万円の現金が増加
- 800万円の税込により純資産が増加(※)

※純資産の増加と収益の発生については違いが分かりづらいかもしれませんが、これは国が示したルールとしてそういうものと割り切ってください。

税金は、住民からの出資であると捉える考え方によるものです。



演習 ～ふせん紙の貼り替え～

- ふせん紙を貼り替えて、貸借対照表と行政コスト計算書を作ってみましょう。決算の演習になります。
- 本資料でもイメージ図を示しますが、ふせん紙の貼り替えは別紙の「演習解答用紙」を使用してください。

貼り替え作業1 ～行政コスト計算書～

行政コスト計算書

費 用

費用の発生の付箋を集めて貼ってください。

収 益

収益の発生の付箋を集めて貼ってください。

差 引

費用と収益の差額を
費用より収益が多い場合は、
純資産の増加
コスト収支黒字 ○○円
収益より費用が多い場合は、
純資産の減少
コスト収支赤字 ○○円
と新しく付箋を書いて貼ってください。

貼り替え作業2 ～貸借対照表～

貸借対照表

資 産

負 債

純資産

合計 万円

一致

合計 万円

➤資産の増加と資産の減少の付箋を集めて貼ってください。
➤同じ種類(現金など)は近くにまとめて貼ってください。

➤負債の増加と負債の減少の付箋を集めて貼ってください。

➤純資産の増加と純資産の減少の付箋を集めて貼ってください。
➤行政コスト計算書の差引で作った付箋と同じ付箋(コスト収支赤字)を作って貼ってください。